

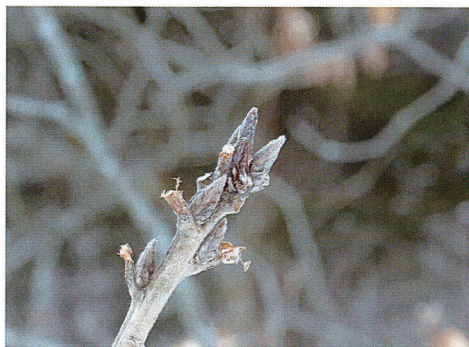
県民の森 植物紹介 ⑤6 カシワ (ブナ科)

5月5日の端午の節句にお供えされるカシワ餅に葉が使われていることで有名です。葉は長さ7-15 cmほどの楕円形で、縁が波状になっていて特徴的。ブナ科のなかで最大の大きさです。落葉樹ですが、冬になっても一部の葉が枯れたまま落葉せずに残るので、子孫繁栄を象徴する縁起の良い木とされています。カシワは、葉を落とすための離層（りそう）という組織が出来にくく、厳しい冬の間、枯れた葉で冬芽を守って、春に新しい葉が芽生える時に落葉するのです。



学習館工作材料のカシワの実

カシワのドングリは丸くて大きく、もじゃもじゃとした深い帽子を被っています。学習館の工作材料でも提供していますので、実物を触れてご覧いただけます。県民の森では、市町村の森で見ることが出来ます。落葉して明るくなった森のなかで、枯れた葉を纏った姿はとても目立ちます。



冬芽 2021年3月3日



深緑 2021年7月27日



冬の間残っていた葉 2021年3月8日